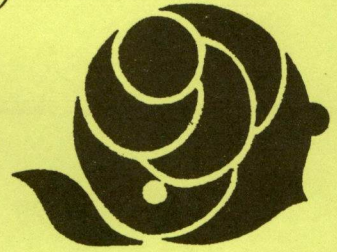


Rosa Pumula

ローザ・プルムラ



●茨城大学・大学教育研究開発センター

ニュースレター №.6

目次

天高く馬肥ゆる秋 ……………	1
キャンパス情報 ……………	2
前期試験を終えて ……………	4
Voice ……………	5
教養教育古今東西 ……………	6
教養教育NOW ……………	7
掲示板コーナー ……………	8

新入生ガイダンスに臨んで、私自身何か釈然としないものを未だに感じている。その後、学生の対応に混乱は少なく順調とのこと。ガイダンスはそれなりの成果をあげたと思う。

ではなぜか？。私の学生時代に、配布書類の確認から始まり受講科目の時間割作成、更にそれらの申告・登録まで2日間をかけた懇切丁寧なガイダンスが行われていたのだろうか。履修の手引等の書類をわたされ、各自で読むこと。その後の大学生活も万事がこのようなものであったと記憶する。

当世、学生さんは大切なお客さま。満足できる学園生活を過ごしていただくために大学の施設・設備、教官スタッフ、もちろん教育メニュー等に細心の注意を払い、お迎えしなければなりません。このようなガイダンス！、当然で御座いましょう。とは言うものの、その背景に見え隠れする風潮に心が痛みます。

ある全国紙の特集記事で、大学キャンパスのリゾート化で慢性的な定員割れ大学を再建した大学関係者談が目をついた。「今の学生は勉強も含めていろいろやりたがっているけど、何をやらいいのか分からない。だから私たちがいろいろな材料を提供しているんです」。更に、この「何をやらいいのか分からない」存在、つまり幼児的存在として大学生をとらえる大学関係者が多いことも同時に指摘していた。

このような指摘が本学に当てはまるとは努々^{ゆめゆめ}思いませんが、今回のガイダンスに直面して、私自身がこのような風潮を幾分なりとも受け入れる心理状態にあることは否めない。（阿久津）

天高く馬肥ゆる秋 後学期開始！

暑かった夏も過ぎ、心地よい秋風が通りゆく季節となった。秋は、スポーツの秋、実りの秋、祭りの秋、読書の秋と爽やかに心身に潤いと喜びを与える季節である。今年入学した学生も大学の実状が分かり、本格的に大学生活を始める時期でもあろう。

後学期が開始された。教養科目をじっくり勉強できるのはこの時期です。教養科目が大学で何故あるのか考えたことがありますか。大学に入学するときには何を専門的に勉強したいか考えて専門とする学部・学科を選択したことでしょう。専門的な知識・方法を学ぶ目的は明確でしょう。では、専門的スキル・能力のみでこの世の中を生きてゆけますか。確かに個人的趣味、芸能を伸ばすことも大切でしょう。しかし、もっと大切だと思うことは、君達は21世紀を生きる世代であることです。21世紀と大業に云っても数年後には迎える年であり、

既に2002年にはワールドカップが日本と韓国で開かれることが分かっているなど現在と変わらない時代のように思えるかもしれません。しかし、100年前の日本及び世界をみれば世紀単位で世の中のしくみ、生活が大きく変わることがよく分かります。20世紀には、偏見、排除、抑圧、武力衝突、戦争が絶えませんでした。その一方で人権、平和、民主主義、寛容、異文化理解など崇高な理念が提唱されてきました。21世紀には、「共に生きることを理解する」（“live together”）ことが大切との考えがあります。まず、他人を理解すること。そして自己理解を前提に、多様性と共通性を理解すること。しかも、そうすることには価値があるのだと認識できるようになることが大切との考えです。この秋、君達は21世紀に向けて何を考えるのだろうか。

（横沢）

キャンパス情報

人文学部から

長い夏休みも終わり、いよいよ後学期が始まります。

人文学科では、11月から専攻決定の作業に入る予定ですので、人文学科の学生諸君はくれぐれも掲示の見落としなどないように注意して下さい。専攻決定の日程等については10月に掲示します。

コミュニケーション学科では、3年次から始まる総

合研究Iについての説明会を行う予定です。詳しい日時等は決定次第掲示します。

共に人文学部の掲示板に掲示します。

なお、人文学部3学科とも若干名の転学部・転学科を認めています。転学部・転学科試験(11月に実施予定)の詳細については人文学部学務係へ問い合わせ下さい。(伏見)

教育学部から

夏季休業期間も終わり、1年生の皆さんも新たな気持ちで大学に戻ってこられたことと思います。そこで、まだ大学生になって6ヶ月しか経っていませんが、少し先のことを話しておきたいと思います。

教育学部は平成8年度にそれまでの小学校教員養成課程と中学校教員養成課程を学校教育教員養成課程に統合しました。この課程では小中の免許の取得が可能です。しかし、子どもの数の減少にともなって教員採用率は低下し、文部省は教員養成系の学生定員を5千人削減する方針を打ち出しています。こうした昨今の情勢は、教員を目指す人たちにとってまさしく冬の時

代の到来を意味しています。まだ1年生だからと安穩としていないで、厳しい状況を自らの力で切り開く努力を重ねて欲しいと思います。

また、総合教育課程も2年目を迎え、情報文化課程と同じゼロ免(免許を取得しなくても卒業できる)課程として、卒後の活躍が期待されています。しかし、周知のように、就職協定が廃止され、企業への就職を希望する人は4年になってから就職活動を始めても遅いくらいの状況になっています。就職情報なども自ら積極的に収集しなくてはなりません。まだ皆さんは1年生ですが、将来を見据えて、気持ちを引き締めて後期に臨んでください。(相馬)

理学部から

学生の皆さん夏休みはいかがでしたか。4年生の人は就職または大学院入試で忙しかったかも知れませんが、1-3年生は7月中に前期末試験が終わり、心おきなく夏休みが満喫できたことでしょう。茨大理学部は4、5年前から夏休み前試験の方式に切替えたのですが、この方式は国立大ではまだ少数派です(私立

大は夏休み前試験が多いようだ)。今回は、夏休み前試験の功罪について考えてみよう。利点としては、(学生にとって)心おきなく夏休みが楽しめる、講義に中だるみがなく記憶が新しいうちに試験が済ませる、など。他方、不便な点としては、前期日程が窮屈で試験の週が夏の一番暑いときと重なる、学生が夏休みにほとんど勉強しなくなる、などか。それから、学会の

シンポジウムなどが講義の最後の週または試験の週に来ることが多いのが教官側にとって困ります（ほとんどの大学が夏休み前試験になれば解消されるのでしょ

うが)。このように功罪どちらとも言えないようだが、私自身は夏休み前方式が気に入っています。他大学では授業が始まっているのに、9月いっぱいゆっくりできるのはいいものです。理学部では、数年計画で講義室の冷房化を予定しており、第1, 4講義室には既にクーラーが入っています。講義室の暑さはいずれ軽減されるでしょう。(日合)

工学部から

みなさんはBコースを知っていますか？

茨城大学工学部システム工学科には夜間に授業を行うBコースがあります。Bコースは主として勤労学生および社会人を対象として設けられたものですが、その中にはもちろん普通の学生もいます。授業時間は、午後5時35分から午後8時40分までですが、実験の授業の場合には9時を越えることもあるようです。日立キャンパスではBコースの授業時間に合わせて事務部はもちろん生協および図書館も夜遅くまで業務を行っています。もっとも工学部では深夜まで実験を行うことは日常茶飯事ですので(卒論間際には不夜城となる)Bコース以外の学生にとっても好都合です。

Bコースは社会人でも効率的な学習ができるようにカリキュラムが組んであり、基本的に昼間のコースと同様の知識を身につけることができます。しかしながら、夜間に授業を行うため授業本数が少ないという問題があります。このため、Bコース学生は単位を落とさないように努力しています。

また、先に述べたようにBコースには社会人から勤労学生に至るまで様々な学生が集まっています。それぞれの立場が異なる学生全員に知的な満足感を与えるということは教官にとって非常にやりがいがあることですが、一方では非常に困難な作業でもあります。

Bコースに関する質問や意見があれば工学部教官にいつでも声をかけてください。(西野)

農学部から

現在農学部は試験期間中です(このレターの原稿締切が8月8日なので時期外れの内容になっている点御容赦願います)。梅雨明けの暑い最中の試験は辛いものがありますが、これさえ乗り切れば夏休みが待っています。頑張ってください。

ただし、農学部ではその前に2つの行事があります。

一つは、試験終了日の7月28日に毎年恒例の打ち上げとしてビア・ガーデンが開かれます。大いに飲んで騒いで下さい。もう一つは、8月2・3日に茨大前通りで“まい・あみ・まつり”(ネーミングがいかに地元を象徴していて笑えます)が開催されます。この祭りは補講期間中に行われるため前日の金曜日の午

後は授業にならないのが通例のようです。

このようにこじんまりとしてまとまりが良く、地元に着しているところが農学部の良い点なのですが、「悪事千里を走る」となって裏目に出ることもあるようです。お互いに気をつけましょう。しかし、この弊害は教官にとっての方がダメージが大きいというように聞いております。

10月には鋤耕祭が開催されます。他学部の学生諸君も一度農学部キャンパスを訪れてみませんか。このレターなどより、教官のいないコンパの席で先輩達から聞かせられる話こそが農学部の真実の姿なのではないでしょうか。(安藤)

前期試験を終えて

篠崎達明（工学部Bコース1年）

学生の身分から離れて、早いもので12年の歳月が経った。卒業のときには、もう学生になることは2度と無いだろうと思っていたが、いざ社会に出て働いてみると、自分の知識不足からくる不都合を幾度と無く経験し、専門知識の必要性を大いに感じた。このため大学への進学を考え、縁あってこの茨城大学工学部に籍を置くことになった。

履修については、学校から長く離れていたこともあり、ある程度の厳しさは覚悟していたが、やはり実際にはかなり厳しいものがあった。平日は仕事と授業に追われる日々が続く、心に全くゆとりを持つことが出来ず、途方に暮れることが多かった。

しかしそんな厳しい状況の中で救いになったのが、クラスでの友人の存在であった。クラスメイトの大半は10代であり、歳が一回りも離れた若い人達と、上手くやっていけるのだろうかという不安があったが、それは全くの取り越し苦労に終わった。彼らはとても大人であり、この歳の離れたクラスメイトを簡単に受け入れてくれたのであった。

大学で学ぶことは専門知識を得るばかりでなく、これから社会で生きていく上でもっとも必要とされるコミュニケーションの能力を、友人とのつきあいの中から高めることが出来ることである。これは独学では得ることの出来ないものであり、このときに出来た友人は、これからの人生においてとても重要な位置を占めるものである。

この様な環境の中で学ぶことが出来ることは非常に幸運である。この素晴らしい機会を与えてくれた勤務先の方々、そして茨城大学工学部に感謝をすると共に、これからの自分自身が発展するための糧にしたいと考えている。



小竹昭彦（農学部1年）

前学期試験が終わり、私のテストも終わった。今回は、私が入学してから初めての試験だったわけであるが、感想は「厳しかった」の一言に尽きると思う。なぜこのような結果をまねくことになったのだろうか。それは高校までの試験とは異なり、試験範囲が漠然としたものだったり、単に一問一答形式でなく文章として答えるものばかりだったりということだからだ。今までとは随分勝手が違っていたので、正直言って戸惑ってしまった。しかし私が「厳しかった」と感じたのにはもう一つ他に大きな原因がある。というよりむしろ、先程述べたものよりはこの原因の方が主であろう。それは、大学入学後の私の生活である。よく「学生の本分は学問である」という言葉を耳にするが、私はこの言葉に反するような生活をしていたのである。つまり勉強などはせず、大学から帰ってきてからは、遊んで寝るだけ。大学の講義も時にはうわの空だったりする。日本の大学を象徴するような怠惰で堕落した生活（真面目な大学生には失礼だが）をしていた。全く無意味で無駄な半期を送ってしまった。高校までは「管理」や「保護」といった言葉に表わされるような教育であった。予習や復習、宿題が与えられ、ただそれをこなすような。すべきことが多く大変だったような気もするが、考え方を変えればそれはそれで楽だったのかもしれない。しかし今私がいる場所は、今までと違って「自由」と「責任」の中にいる。受験戦争中からずっと期待し続

けたものの中にいる。それなのに前学期は失敗した。たいして得るものがなく、いたずらに時を過ごしてしまったからだ。後学期は、もう一度始めからやり直すつもりで、大学に合格したあの時の気持ちで、学問や人格をみがき上げていこうと思う。

教 養 教 育 N O W

集計速報 教養教育に関する基本調査 I

上記調査は、平成9年7月9日水曜日2講時に、履修登録者2,004名を対象に配布して実施された。収集データ数は1,008名、回収率は50.3%であった。

〈内訳〉

所属学部：人文学部	教養学部	理学部	工学部	農学部	無効
273名	209名	146名	277名	101名	2名
学 年：一年次	二年次	三年次	無効		
952名	41名	12名	3名		
性 別：男	女	無効			
569名	433名	6名			

Q1 教養科目各科目の「クラス分け」では、希望どおりのクラスに入れましたか、どのくらい満足していますか。

	英 語	未修外国語	人文の分野	社会の分野	自然の分野	総合科目	健康・スポーツ
I 非常に不満だ	6%	6%	4%	7%	8%	8%	7%
II 不満だ	9%	13%	8%	15%	17%	12%	8%
III まあまあだ	34%	34%	35%	42%	37%	40%	21%
IV 満足だ	31%	30%	32%	23%	24%	26%	30%
V 非常に満足だ	21%	17%	22%	13%	14%	15%	34%

Q2 授業の程度、内容などについては、どのくらい満足していますか。

	英語	未修外国語	人文の分野	社会の分野	自然の分野	総合科目	健康・スポーツ	情報関連	主題別ゼミナール
I	7%	8%	4%	10%	11%	8%	4%	7%	8%
II	15%	16%	14%	24%	26%	17%	8%	11%	19%
III	46%	45%	42%	46%	42%	47%	29%	36%	42%
IV	21%	25%	26%	17%	16%	21%	30%	29%	20%
V	11%	7%	14%	3%	5%	7%	29%	17%	11%

I 非常に不満だ II 不満だ III まあまあだ IV 満足だ V 非常に満足だ

Q3 クラスサイズについては、どのくらい満足していますか。

	英語	未修外国語	人文の分野	社会の分野	自然の分野	総合科目	健康・スポーツ	情報関連	主題別ゼミナール
I	2%	2%	3%	3%	4%	6%	2%	7%	3%
II	8%	9%	12%	14%	16%	17%	6%	13%	5%
III	46%	47%	52%	56%	54%	53%	41%	43%	43%
IV	32%	31%	26%	21%	22%	20%	35%	29%	34%
V	13%	11%	7%	5%	4%	5%	16%	8%	15%

I 非常に不満だ II 不満だ III まあまあだ IV 満足だ V 非常に満足だ

Q4 本年度4月に行われた教養科目履修ガイダンスについては、どのくらい満足していますか。

出席していない = 116名 (11.5%)

出席者 (892名) の満足度

非常に不満だ	不満だ	まあまあだ	満足だ	非常に満足だ
8%	21%	56%	13%	3%

この調査は、教養科目の授業及び履修方法について、学生諸君がどの程度満足しているかをみるために行われたものです。現在集計を進めていますが、概観するところ、希望どおりのクラスに入れていない者が、多いところでは全体の1/4の割合になっていること。授業内容の満足度では1/3以上の者が不満を持っている科目があること。また、履修ガイダンスについても、決して多くの学生に満足いくものでないことが示唆されています。よりよい授業形成のために一層の点検評価を要すると思われます。

今年度の回収率 (50.3%) は、昨年度 (39.9%) を大幅に上回りました。ご協力いただいた学生に感謝致します。(異)

掲 示 板 コ ー ナ ー

企画室だより

《平成9年度大学祭日程》

- ◇ 茨苑祭 …… 水戸キャンパス
11月21日(金)～23日(日)3日間
※21日(金)は、1日休講
- ◇ こうがく祭 …… 日立キャンパス
本年度実施するか未定
- ◇ 鋤耕祭 …… 阿見キャンパス
10月24日(金)～26日(日)3日間
※農学部の1年次生は、24日に農学部の見学を実施しますので、全員参加してください。
講堂前よりバスが出ます。詳細については、掲示をしますので注意してください。

「教養教育の授業に関するシンポジウム」の開催

大学教育研究開発センターでは、昨年に続き本年も「教養教育の授業に関するシンポジウム」を開催します。今年、健康・スポーツ科目と情報関連科目について、その授業内容や教育方法に関するシンポジウムを企画しています。教職員や学生の皆さんの積極的な参加をお願いします。シンポジウムのプログラム等の詳細は、後日掲示によりお知らせします。

開催日 11月26日(水)
時間 13時～17時30分
場所 茨苑会館2F(7, 8, 9集会室)
なお、終了後、懇談会をする予定です。

つ ぶ や き

後学期開始にあわせてローザ・ブルムラ第6号をお届けします。4月の入学式からあっという間に半年過ぎて、長かった夏休みもあっという間に過ぎていってしまった新入生のみなさん、大学生活にはもう慣れましたか。大学の講義や試験のスタイルは、高校とはずいぶん違ったものであると感じて、とまどった人は多かったのではないのでしょうか。今号では、そんな人たちのために、前期試験の反省および後期履修の心構え等を記事として取り上げてみました。特に、先輩の助言は貴重ですから、よーく読んでおきましょう。では、次号をお楽しみに。バイバイ。(S.N)

発行日 平成9年10月
 発行者 茨城大学
 大学教育研究開発センター
 水戸市文京2-1-1
 029(228)8416〔企画室教養教育係〕